

2 アセット推進

テクノロジーアセットの創出と活用促進により Horizontalビジネスを強化

技術革新統括本部ではグローバルで技術注力領域を定め、各領域で業界に依存しないテクノロジーアセットを創出し、事業部門での活用促進を行っている。NTTデータの3社体制移行後も、国内事業会社および海外事業会社とのアセット連携をさらに加速し、グローバル全体でのHorizontalビジネスを強化していく。

グローバルで技術注力領域を定め、 テクノロジーアセットを創出

今中期経営計画の戦略において、技術革新統括本部では「アセットベースのビジネスモデルへの進化」と「先進技術活用力とシステム開発技術力の強化」に注力している。

アセットとは業界・業務のフォーサイト、ベストプラクティス、ソフトウェア、自社ツール等再利用可能なものと定義している。技術革新統括本部では、なかでもグローバル共通のテクノロジーアセットの創出を狙う。グローバルで技術注力領域を定め、各領域で業界に依存しないテクノロジーアセットを開発する。そ

れらをNTTデータグループ社員が利用できるアセットリポジトリで、お客様への価値提供を再利用可能な状態で集約する。

成長領域にフォーカスした、 差別化ポイントとなる武器づくり

① Cloud領域

今後も高い市場成長率が見込まれるCloud領域の中では、ワークロードがエッジにも拡大することに伴い、集中から分散へとトレンドがシフトしている。ハイパースケーラーのクラウドサービスの多様化が進み、一方で高信頼・高機密性への期待に応えるプライベートクラウド・オンプレもあり、それらが最良な組



株式会社 NTT データグループ
技術革新統括本部 システム技術本部
技術戦略部 アセット推進担当
部長 瀬下 真吾氏

み合わせで構成され、高度に運用管理も可能なハイブリッドクラウド環境へのニーズ増大が予想される。このようなニーズに対応するために、NTTデータではテクノロジーアセットとして、「Hybrid Cloud Managed」を提供している。これはAWS/Azure/Google Cloudなどのパブリッククラウドとプライベート・オンプレ環境を組み合わせで開発・運用するためのノウハウやツール群を一括にまとめている。事業部門が提供するクラウド環境の提案・構築サービスでの活用、あるいはクラウドITOサービスの一部機能として活用され、結果的に迅速にハイブリッドクラウド環境を提供可能とする。加えて予め運用負荷の低減ま

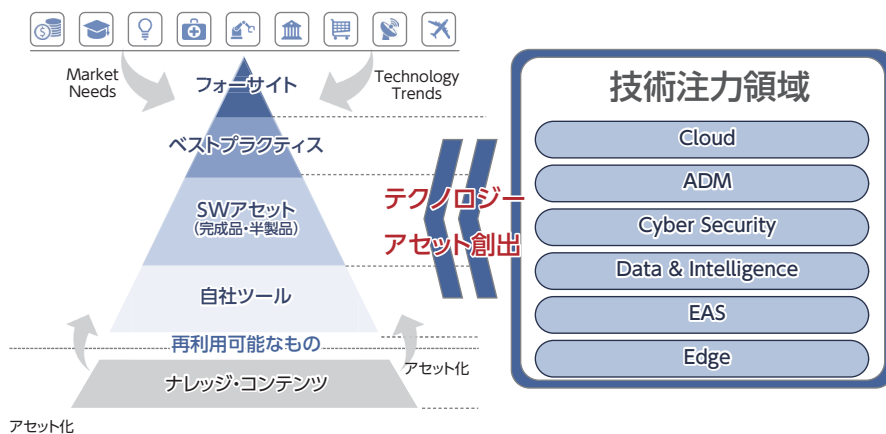


図1 テクノロジーアセットの創出

で織り込むことで、最終的には顧客が継続的にビジネス価値向上に集中できることを目指している。

② ADM (Application Development and Management) 領域

ADM 領域では Agile、DevOps、Cloud Native、Low Code Platform が市場での高い成長率を示している。NTT データでは、これらの技術トレンドに対応するテクノロジーアセットを創出・活用することで、ソフトウェア開発における高生産性・高アジリティを追求している。

加えて、近年急速に進歩を遂げている生成 AI 技術の活用にも注力している。2020 年より日本とスペイン拠点共同で、生成 AI をソフトウェア開発へ適用する取り組みを実施している。この取り組みの一つとして生成 AI を活用しソフトウェアマイグレーションを実現するソリューションを開発し、すでに複数の顧客と PoC を実施している。

ソフトウェア資産のモダナイゼーションでの生成 AI の活用にとどまらず、NTT データのコアビジネスであるシステム開発案件での適用も行う。工数として大きな比重を占める製造、単体試験工程をはじめとして、各工程で利用可能な生成 AI を活用したアセットをグローバルで整備す

ると共に、次世代開発プロセスを整備し、グローバル全社員 19.5 万人で標準利用していくことを目指す。

③ Cyber Security 領域

高度化・複雑化するサイバー攻撃に対し、迅速な検出から対応・復旧までを行うセキュリティ運用に対する需要が高まっている。NTT データでは、2023 年 7 月にセキュリティ運用のアウトソーシングサービス (MDR サービス: Managed Detection and Response。)を日本国内で提供開始した。NTT データグループ 56 カ国 19 万人のグローバルガバナンスで培ったノウハウをビジネス化し、さらにこれを複数のグローバル企業に対して導入・運用した実績をサービス化したもの。同年度内にはグローバルに拡大する。MDR サービスは、インシデント対応の仕組み導入から、運用時におけるインシデントの検知・対応・復旧、さらには導入した仕組みの評価・改善までを一気通貫で支援する。サービス導入フェーズでは、NTT データのノウハウを活用して、最適な SOC (Security Operation Center) や CSIRT (Computer Security Incident Response Team) を構築し、また、必要なソリューションを導入する。運用フェーズでは、ログ

分析やインシデント対応をサポートし、評価・改善フェーズでは、疑似インシデントを計画してシステムの対策状況を評価して提案するなどのサービスも提供する。MDR サービスを担う人材を育成してグローバル展開を目指しており、2026 年 3 月末までにセキュリティ運用で年間売上高 2000 億円超を目指す。

④ D&I (Data & Intelligence) 領域

D&I 領域では、成長を続ける AI 市場での案件獲得を支える、AI ガバナンス、AI エンジニアリング、データ・ファブリック、意思決定インテリジェンスの 4 つのテクノロジートレンドに関するアセットを整備している。

アセットの 1 つである「G-DSP アセット (Global Digital Success Program)」は、顧客のデータドリブン経営を実現するコンサルティングのベストプラクティスや、グローバルで実績のある診断ツールや標準テンプレートを提供する。

また、「Global Intelligent Platform (G-IP)」は、CDO/CIO 視点でのデータプラットフォーム戦略のコンサルティングに加え、設計・開発～移行・運用までを効率化するリファレンスアーキテクチャ、自動化ツール等を提供する。

アセットを最適な組合せで活用することで顧客提供価値、成長性、収益性を向上

各技術領域が提供するテクノロジーアセットを、顧客ニーズやシステム課題に応じて最適な組み合わせで活用することで、End-to-End での対応力を高め、顧客提供価値、成長性、収益性を向上させる。

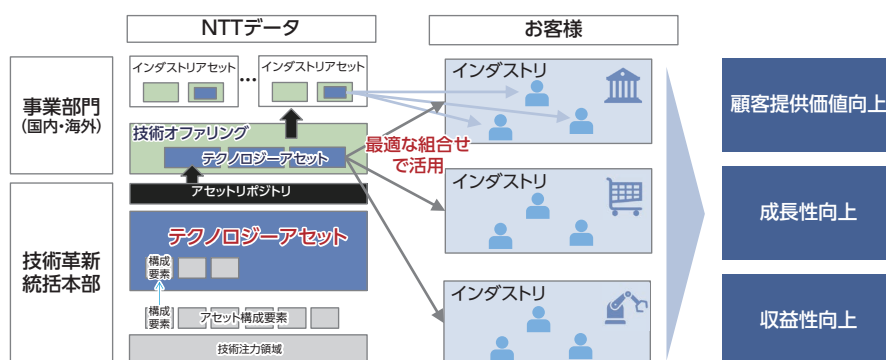


図2 テクノロジーアセットの活用促進